

# 紙芝居指導計画書

紙芝居グループ No. \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

対象：小学生全般

①主題：好き嫌い（紙芝居タイトル:「まさかのさかな」 原作:尾崎美紀、原画:末崎茂樹）

②ねらい：食べ物には命があったことを知らせ、好き嫌いせず食べ物に感謝していただく  
大切さを理解させる。

③指導の時間：15分（導入指導5分、紙芝居5分、後指導5分）

④指導の展開：

指導内容	指導者の働きかけ	児童の反応と活動	指導上の留意点
導入Ⅰ 現状把握。	好きな食べ物、嫌いな食べ物があるか尋ね、各自にメモさせる。	自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物を思い浮かべ、メモする。	最初から好き嫌いが悪いと決めつけず、児童の現状のままを引き出す。
導入Ⅱ 自分の行動の結果に興味をもつ。	好きな食べ物、嫌いな食べ物を、それぞれ自分はどうしているか尋ね、考えさせる。	メモをもとに、自分がそれぞれの食べ物をどうしているか、振り返る。	食べなかった食べ物はその後、どうなるのかな、誰かが代わりに食べてくれるのかな？などヒントを与えながら、残した食べ物に気持ちを向けさせる。
紙芝居	「まさかのさかな」を見せる。	見る。	お話を味わうことができるよう、ストーリー性を重視した楽しい語り口をこころがける。
後指導Ⅰ 紙芝居ポイントを確認する。	鯛のおじいさんの教え「生き物は誰かに食べられると今度はもっと素敵な生き物に生まれ変わる」を確認後、「ぼく」がどうしたのか尋ねる。	思い出し発表する。 ・出された食べ物は食べてあげる方が良いことに気づいた。 ・今まで食べられなかった鯛を食べた。	「おじいさんの教え」は本当かな？と、あくまでもファンタジーとして位置づけを行うが、是非は示さない。
後指導Ⅱ 食べ物に感謝することが大切な訳。	鯛は何に生まれ変わったのか尋ねる。	考え発表する。 ・転校生の女の子 ・「ぼく」	発表後、生きることは他の者の命をいただくことであり、私達は食べ物に感謝することが大切であることを話して伝える。
後指導Ⅲ 実践へのきっかけづくり。	「ぼく」はその後、お魚を食べられるようになったのかな、みんなはどうしたらよいか尋ね、終了する。	メモを見て考える。	「だから好き嫌いはいけない」と指導者が結論を示すことは控え、児童自身でどうするのがよいかを考えさせるきっかけにして終了する。